

## 幼少期からの肘と膝裏症状が中学 2 年で全身化し受診 3 か月で顔の赤みが軽減した思春期アトピーの経過 (14 歳女性)

症例 ID：001-14-YM | 記録日：不明

### 1. 診断・治療前経過

幼児期から膝の裏や肘にかゆみがあり、症状が出るたびに皮膚科で外用薬を使用しました。小学校高学年から中学 2 年の夏にかけて使用頻度が増え、慢性的にステロイドを使用する状態となりました。

中学 2 年の夏には外耳炎、アレルギー性結膜炎、めまい、強い頭痛も重なり、学校を休むことがありました。遠距離受診への不安がありましたが、1999 年 9 月 26 日に松本医院を受診されました。

### 2. ステロイド使用歴

| 項目    | 内容                                                 |
|-------|----------------------------------------------------|
| 使用内容  | 幼児期から肘・膝裏などにステロイド外用薬を使用しました。                       |
| 製品名   | 不明です。                                              |
| 強度    | 不明です。                                              |
| 使用期間  | 幼児期から断続的に使用し、小学校高学年から中学 2 年頃までの 3～4 年間は慢性的に使用しました。 |
| 中止時期  | 1999 年 9 月の松本医院受診時に中止しました。                         |
| 来院前／後 | 来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。                       |

### 3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

| 時期              | 治療開始から  | 経過                                   |
|-----------------|---------|--------------------------------------|
| 幼児期             | 発症      | 膝裏と肘にかゆみが出始めました。                     |
| 小学校高学年～中学 2 年   | 外用継続    | ステロイド外用薬の使用頻度が増えました。                 |
| 中学 2 年夏         | 全身状態の変化 | 外耳炎、結膜炎、めまい、強い頭痛が重なりました。             |
| 1999 年 9 月 26 日 | 治療開始    | 松本医院を受診し、漢方入浴、煎じ薬、外用処置を開始されました。      |
| 治療開始直後          | 症状の強い時期 | まぶたの腫れ、皮膚の硬化と色調変化、耳からの浸出液、脱毛がみられました。 |
| 開始約 3 か月        | 皮膚の変化   | 顔の赤みが目立ちにくくなりました。                    |

### 4. ピーク時期

ピークは、治療開始直後にまぶたの腫れ、皮膚の硬化と色調変化、耳の浸出液、脱毛が重なった時期です。

### 5. 困りごと

- ・頭痛が強く、学校を休むことがありました。
- ・遠距離受診への不安がありました。
- ・治療開始後のまぶたの腫れ、耳の浸出液、脱毛に不安が強くなりました。
- ・首、肩、腕、脚の症状が残り、長期的な治療が必要でした。

### 6. 経過のまとめ

治療開始直後はまぶたの腫れ、耳の浸出液、脱毛などがみられましたが、約 3 か月後には顔の赤みが目立ちにくくなりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。  
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。